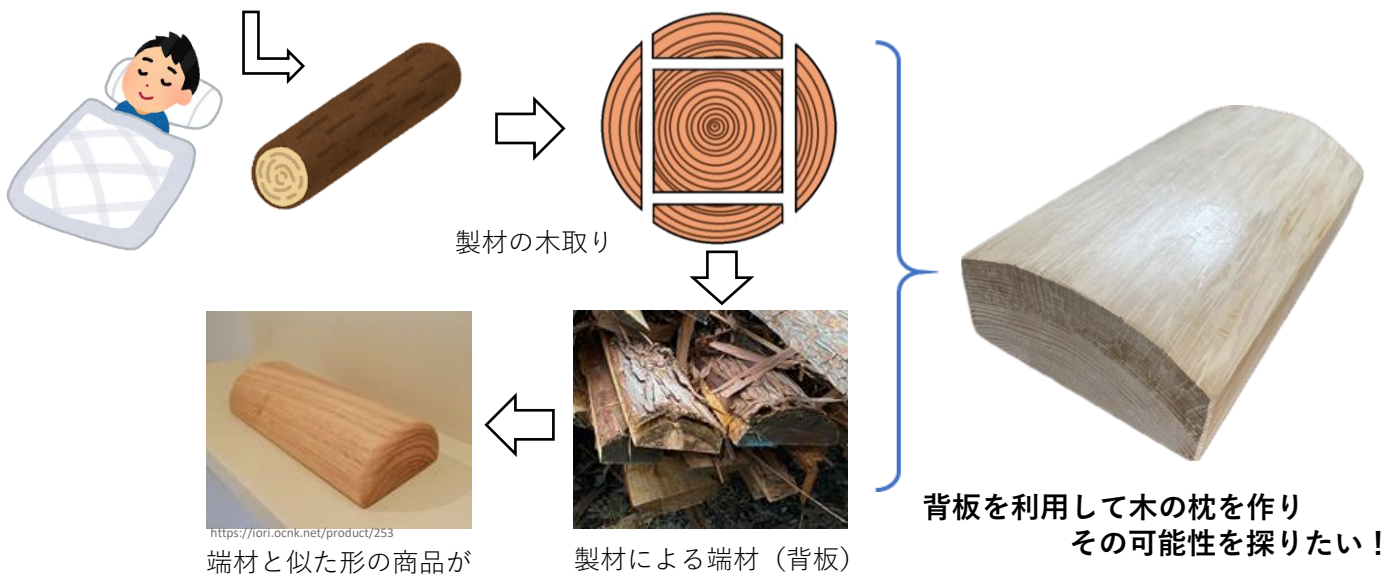


背板からつくる木の枕

岐阜県立森林文化アカデミー 森と木のエンジニア科林産業コース 山口 裕陸

背景 寝ることが大好きな自分は、アカデミーらしく木を使って、睡眠に関する研究がしたい



検証Ⅰ 木の枕の実用性



実施内容

- ①背板を枕の大きさにカット
- ②カットした背板の表面をかんなどで整える
- ③完成品を自ら使用

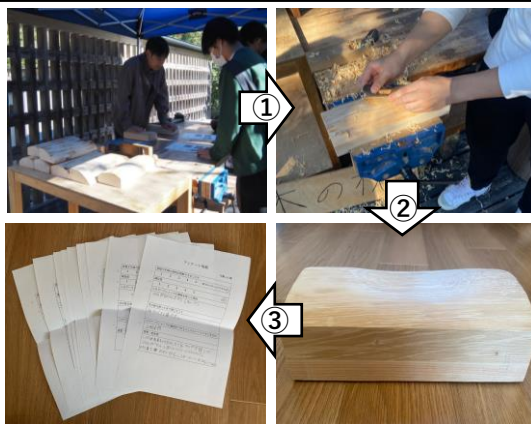
木の枕のメリット

- ・香りが良い
- ・木目が見え木特有の見た目の良さ
- ・汚れた場合の手入れが簡単

木の枕のデメリット

- ・硬いため慣れが必要な場合がある
- ・マットが柔らかすぎると枕が反発し安定しない

検証Ⅱ 木の枕が新たな端材利用方法となるか



実施内容

- ①木の枕作製ワークショップ
- ②表面を整えるだけでなく、頭を置く位置にくぼみを作ってもら
- ③アンケート調査

アンケート結果

- ・背板がどういったものか理解してもらえた
- ・ワークショップだけでなく木の枕も好評だった
- ・本ワークショップに適正価格をつけてもらった
→結果:500~3000円程度
(回答者9人)

まとめ

I 木の枕の実用性

- ・頭の位置にくぼみを作る、タオルを敷く等で木の枕の扱いを調整可能



- ・木の香りや木の見た目、感覚的にも視覚的にも木の良さを感じリラックスできる

実用性ありと評価

II 木の枕が新たな端材利用方法となるか

- ・アンケートの結果、ワークショップも木の枕も好評で、かんたとバイスさえ揃えば、背板を木の枕としてワークショップで利用可能
- ・アンケートの結果、背板をチップとして販売(¥8000/t)するより収益が多い見込み

新しい端材利用方法となると評価